

## 令和3年度「地域と共にある学校づくり」に関するアンケート調査結果概要について

今回の調査について御協力ありがとうございました。

当課で、アンケート集計の後、調査・分析を行いましたので、結果の概要を報告します。

※地推員等・・・地域学校協働活動推進員等（地域コーディネーター含む）  
※地域学校協働本部・・・ここでいう地域学校協働本部とは、地域や保護者と話し合いをする「会議」のことで、その名称は問わない。

### 【調査目的】

県内における「地域と共にある学校づくり」の現状を把握・分析し、成果と課題を検証するとともに、今後のさらなる推進に生かしていく。

### 【調査結果の概要】

#### 地域学校協働活動の効果について（p.2～p.3）

地域学校協働活動を実施して、特に「子どもがあいさつを積極的に行うこと」、「保護者の学校に対する理解の深化」、「地域住民の学校に対する理解の深化」、「子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実」に効果があったと感じています。そして、それらの効果を生み出すためには、特に「学校が望むボランティアの確保」、「地推員等と学校との円滑なコミュニケーション」が必要であると感じています。

#### 学校園について（p.4～p.10）

地域学校協働活動として環境整備の「草刈り・剪定作業・花壇整備・農園作業」や学校補助の「登下校の見守り」といった校外での活動を実施している学校園が多いです。

学校と地域が話し合う会議（熟議）の場は多くの学校園に設けられています。会議では様々な議題が取り上げられていますが、「情報交換」を行う学校園の割合が高く、「子どもの教育課題」について議論した学校園の割合は昨年度よりも減少しています。

地推員等として、その役割を担い活動する学校教職員は全体の 23.7%でした。また、地域学校協働活動の計画・実施に際しては、「学校（教職員）が、地推員等の役割を担い、直接ボランティアに依頼している」の割合が増加しています。

地域学校協働活動に対する教職員の理解を深めるために「地推員等やボランティアを交えた会合を開催した」学校園の割合が増加しています。

ボランティア等の方々が打ち合わせや活動後の振り返りを行う場所がある学校園の割合は全体の 58.2%でした。

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、子どもたちがボランティアと対面する機会を設定している学校園の割合は昨年度よりさらに減少していますが、「子どもたちからの手紙を渡している」など、学校園がボランティアの方々のやりがいを引き出す取組を工夫して実施しています。

県内のコミュニティ・スクールの導入率は 36.3%であり、学校運営協議会委員は「現PTA関係者」、「学校教職員」、「地域住民」、「民生委員・児童委員」の方が多いです。

#### 地域学校協働活動推進員等について（p.11～p.13）

多くの地推員等が自身のボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域、ボランティア等との連絡調整、要望・状況把握など、学校と地域・ボランティアをつなぐ活動に取り組んでいます。

定期的な打ち合わせや日常的な話の中で学校との情報を共有したり、ボランティアの要望を把握したりしている地推員等が増えています。

また、地域学校協働本部等やボランティアを通して学校と情報を共有したり、学校や地域住民組織等から話を聞くことでボランティアの要望を把握したりしている地推員等も増えています。

#### 市町村教育委員会について（p.14～p.17）

多くの市町村に「地域学校協働活動」や「コミュニティ・スクール」の運営方法等を検討する会議や委員会等が設けられており、その会議や委員会等には、「現PTA関係者」、「学校教職員」、「行政職員」、「地域住民組織（自治会等）関係者」、「地推員等」といった立場の方が多く参加しています。

地推員等の役割を担い活動する学校教職員は全体の 18.5%でした。

「地域と共にある学校づくり」における取組は、「地域の活性化・まちづくり」や「高齢者の生きがいづくり」につながっています。

各市町村教育委員会は「特色ある学校づくり」、「児童の多様な学びの創造」、「学校に対する地域の理解の深化」を期待してコミュニティ・スクールを導入しています。

※詳細については、次ページ以降を御覧いただき、「地域と共にある学校づくり」の推進の参考にしていただきますようお願いいたします。